

2023年 3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年 2月10日

上場会社名 アビックス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 7836 URL http://www.avix.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)廣田 武仁  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役副社長 (氏名)桐原 威憲 (TEL)045-670-7720  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	1,868	79.6	△11	—	△127	—	△131	—	△147	—
2022年3月期第3四半期	1,040	59.5	0	—	△42	—	△47	—	△56	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 △148百万円(—%) 2022年3月期第3四半期 △56百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△4.19	—
2022年3月期第3四半期	△2.05	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	2,425	1,332	54.9
2022年3月期	2,474	1,481	59.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 1,330百万円 2022年3月期 1,477百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,800	55.8	170	604.0	20	—	16	—	10	—	0.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期3Q	35,129,566株	2022年3月期	35,129,566株
2023年3月期3Q	—株	2022年3月期	—株
2023年3月期3Q	35,129,566株	2022年3月期3Q	27,475,318株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社において判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因の変化により、これら業績見通しとは異なる結果となることを御承知の上、投資判断を下される様お願い致します。業績予想の前提となる仮定等につきましては、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費や設備投資が持ち直すなど、一般的に回復基調となりました。一方で資源価格の高騰や動力費の高騰など、依然として先行き不透明な状況が続いております。このような状況の中、当社グループは、「デジタルサイネージ業界No. 1」の達成に向けて積極的な拡大策を展開してまいりました。具体的には、当社グループの主要サービスである「MiRAi PORT」において、既存サービスであるCMS（コンテンツマネジメントシステム）だけではなく、サイネージとAIを組み合わせた「Ai Insight」「Ai Counter」「Ai Assistant」などのサイネージプラットフォームとしての多機能化を推進してまいりました。また、デジタルマーケティングの取り組みとして、デジタルサイネージや新サービスに関するウェビナーについては、継続して開催し、顧客との接点を増やし、的確なマーケティングの実現に注力いたしました。このような取り組みの効果に加え、代理店との連携強化や総合演出力を活かした新規マーケットの開拓の成果が表れ、下半期におけるスタジアムなどのスポーツ施設や小売業界等の大型チェーン店、大型商業施設の案件数は増加しております。しかし、サイネージマーケットの拡大に伴う競合参入による価格競争や円安進行による仕入価格高騰が利益を圧迫したこと、および下半期の案件の検収時期が第4四半期に集中していること等により、第3四半期連結累計期間においては営業損失を計上する結果となりました。

これらの結果、売上高1,868,235千円（前年同期比79.6%増）、営業損失127,885千円（前年同期は42,763千円の営業損失）、経常損失131,090千円（同47,596千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失147,296千円（同56,460千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。また、セグメントごとの業績は次のとおりであります。

#### ①デジタルサイネージ関連事業

デジタルサイネージ関連事業は3部門あり、機器リース部門は主にデジタルサイネージのリース、運営部門はデジタルサイネージ向けを中心とした販促支援サービス（コンテンツ配信等のソフト面でのサービスやメンテナンスの他、新たな販促支援サービス）の提供、情報機器部門はデジタルサイネージの製造・販売を行っております。上述した拡大策の継続により、更なる案件獲得を目指してまいります。

以上の結果、デジタルサイネージ関連事業は、売上高1,802,462千円（前年同期比85.3%増）、セグメント損失123,708千円（前年同期は44,104千円のセグメント損失）となりました。

#### ②Value creating事業

デジタルプロモーション株式会社が運営している、Value creating事業につきましては、自ら運営するハイパーローカルメディア「タウンビジョン」や地元密着の記者、各種SNSサービスの活用やターゲットユーザーに響くコンテンツ（記事、動画）制作により、地域での企業のPR、ファン作り、集客からブランディング、また地方自治体の魅力あるコンテンツ開発など地域に係るエリアファンマーケティング（地域密着型マーケティング）を行っております。当事業はいわゆるサブスクリプションサービスが中心であり、今後も安定的な成長を目指してまいります。また、将来的に当社グループの基幹事業とするべく、今後も人員の増強等、積極的な投資を行ってまいります。

以上の結果、Value creating事業は、売上高65,772千円（前年同期比2.4%減）、セグメント損失4,177千円（前年同期は1,341千円のセグメント利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産は、2,425,690千円（前連結会計年度末比48,397千円の減少）となりました。その主な要因は、棚卸資産及び前渡金が増加したものの、現金及び預金が増加したことによるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債は、1,092,751千円（前連結会計年度末比100,158千円の増加）となりました。その主な要因は、前受金及び長期借入金が増加したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、1,332,939千円（前連結会計年度末比148,555千円の減少）となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年5月13日に発表いたしました業績予想に変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	874,674	327,745
受取手形	26,302	11,324
電子記録債権	—	164,779
売掛金	487,015	300,970
商品及び製品	72,766	254,534
仕掛品	2,022	13,300
原材料	8,086	5,654
前渡金	83,860	406,707
その他	17,247	32,853
貸倒引当金	△374	△476
流動資産合計	1,571,601	1,517,393
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備（純額）	23,255	21,465
車両運搬具（純額）	1,071	804
工具、器具及び備品（純額）	34,909	84,261
レンタル資産（純額）	10,863	7,717
リース資産（純額）	37,958	26,835
有形固定資産合計	108,059	141,083
無形固定資産		
のれん	705,501	625,128
その他	26,810	42,237
無形固定資産合計	732,311	667,365
投資その他の資産	62,115	99,847
固定資産合計	902,486	908,297
資産合計	2,474,087	2,425,690
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	164,878	99,520
1年内返済予定の長期借入金	277,710	285,476
未払法人税等	12,246	12,205
賞与引当金	28,734	12,965
前受金	34,202	122,269
その他	91,619	92,280
流動負債合計	609,390	624,718
固定負債		
長期借入金	355,672	442,951
その他	27,530	25,082
固定負債合計	383,202	468,033
負債合計	992,593	1,092,751

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,207,564	1,207,564
資本剰余金	617,740	617,740
利益剰余金	△348,057	△495,354
株主資本合計	1,477,246	1,329,950
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	746	666
その他の包括利益累計額合計	746	666
非支配株主持分	3,501	2,322
純資産合計	1,481,494	1,332,939
負債純資産合計	2,474,087	2,425,690

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	1,040,182	1,868,235
売上原価	625,932	1,291,026
売上総利益	414,249	577,208
販売費及び一般管理費	457,012	705,094
営業損失(△)	△42,763	△127,885
営業外収益		
受取利息	5	904
受取配当金	68	111
為替差益	—	1,794
その他	44	323
営業外収益合計	118	3,133
営業外費用		
支払利息	4,752	6,131
その他	199	206
営業外費用合計	4,952	6,338
経常損失(△)	△47,596	△131,090
特別利益		
保険解約返戻金	14,597	—
新株予約権戻入益	1,072	—
負ののれん発生益	583	—
特別利益合計	16,253	—
特別損失		
役員退職慰労金	23,355	—
特別損失合計	23,355	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△54,697	△131,090
法人税、住民税及び事業税	1,622	7,640
法人税等調整額	—	9,744
法人税等合計	1,622	17,385
四半期純損失(△)	△56,319	△148,475
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	140	△1,178
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△56,460	△147,296



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純損失(△)	△56,319	△148,475
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	300	△80
その他の包括利益合計	300	△80
四半期包括利益	△56,019	△148,555
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△56,159	△147,376
非支配株主に係る四半期包括利益	140	△1,178

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		調整額 (注1)	合計
	デジタル サイネージ関連	Value creating		
売上高				
外部顧客への売上高	972,815	67,366	—	1,040,182
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,600	1,000	△4,600	—
計	976,415	68,366	△4,600	1,040,182
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△44,104	1,341	—	△42,763

(注) 1 セグメント売上高の調整額△4,600千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

3 セグメント利益又はセグメント損失(△)には、適当な配賦基準によって、各報告セグメントに配賦された全社費用を含んでおります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		調整額 (注1)	合計
	デジタル サイネージ関連	Value creating		
売上高				
外部顧客への売上高	1,802,462	65,772	—	1,868,235
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,653	—	△3,653	—
計	1,806,115	65,772	△3,653	1,868,235
セグメント損失(△)	△123,708	△4,177	—	△127,885

(注) 1 セグメント売上高の調整額△3,653千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント損失(△)の調整後の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

3 セグメント損失(△)には、適当な配賦基準によって、各報告セグメントに配賦された全社費用を含んでおります。